

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2022

月刊情報誌
No.98発行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
〒080-0351
北海道河東郡喜望峯町字然別
北5線西25番地2
FAX 0155-40-7301

十勝の寒さ

先日は街内で20℃近くまでいき、牧場では23℃記録。今年最低に下がりました。そんな時に朝6時から出荷。手袋を温めて作業していても直ぐに手が痛くなるまで寒さがしみこみます。空にお日様の明るさがやってきて、出荷の育成牛も家畜車に無事に積み込みできました。日増しに日が伸び、寒さは厳しいですがホッとしますね。日中との寒暖差が15度あり、作業していると暑くて暑くて防寒着を脱ぎますが、外温は氷点下。一段落すると寒さがジワッとやってきます。パドックは、スケートリンクのように凍り、牛追いでは足を取られます。牛たちは慣れているのか走り回ります。毎年滑って又裂き状態の牛が出るのですが今年はいません。

鳥たちの活動が活発になってきました。カケスのような中型鳥が木々に残った実をついばみにきます。ハフチョウたちの群れも間もなく、十勝の白原野をクワークワと叫びながら通り過ぎてゆくでしょう。やっと寒さの峠を越えてきました。



活動のお知らせ

- ・飼養技術研修会の開催 コロナ禍で中止
- ・総会に向けて 5-6月予定 講演予定：日本獣医生命科学大学柴田氏、道総研畜産試験場 糟谷氏

NEWSばか読み

- 国際エネ機関(IEA)石炭火力発電量21年見通し過去最高 中国インド伸びる1/3:合意と反比例
- EU 原発は脱炭素に貢献を認定方針1/3:優先順位、SDGS葛藤
- 米国 大手食肉加工会社の寡占を規制 食肉価格高騰を抑制1/5:インフレ進む
- ダイベストメント(投資撤退)世界1500団体に拡大 石油石炭企業から撤収1/5:世界の流れ
- タマネギ 加工用シェアが22%に拡大 東北産地化1/7:食糧回帰
- 農林水産省 畜舎特例法で滞在時間人数制限規定作成1/7:規制の緩和
- COP26温室ガス国際取引 他国削減を自国換算ルールに1/8:大国取引優位
- 十勝バス 農産物積んだマルシェバス発進1/8:様々な取り組み
- 21年度飼料米 昨対6割増加11万6千ha60万t1/8:減反飼料自給化
- 21年倒産件数 57年ぶりに低水準 支援策奏功1/10:反動が大きい
- 王子HD 木材からプラ開発 コストが壁1/10:取り組み評価
- 21年輸入牛肉 2年連続前年下回る 現地高1/12:自給率をあげよう
- 世界気温史上5番目の上昇 温室ガス濃度が上昇1/12:待ったなし
- 環境庁 鎮守の森に生物多様性で地域認定へ1/12:微生物の宝庫
- 20年ドローン防除が12万ha 約1割増加1/13:普及定着
- 外食12月上売 大半でプラス 客戻り回復傾向1/13:いつまで
- 北大 酪農家調査 経営好調はどうつ病が大1/17:規模拡大が負担
- コメ相場 相対価格が13%安1万2千円台に低迷続く1/19:底見えず
- ポテト輸入遅延で外食影響広がる1/19:国産回帰も出来ず
- 佐賀県 DAIZと組み大豆ミート用品種生産拡大1/19:代替ミート普及
- カシューナッツ殻等 温室ガス削減資材として飼料添加剤に追加1/19:ゲップ抑制剤
- コロナ濃厚接触者拡大で人手不足深刻に1/20:労働力削減はきつい
- 21年訪日客24万人 20年度比94%マイナス1/20:そんなに減ったの
- 21年貿易赤字1.4兆円 原油高輸入24%増1/21:石油におんぶ体質
- 輸入牧草 高騰続く2割高 畜産圧迫1/24:きつくなる
- 農林水産省 行政・JA指導機関の栽培暦をみどり戦略踏まえ再点検1/25:必須
- タイユニコン(ツナ缶世界最大手)植物性魚肉開発1/26:さかなも植物性
- 配合飼料価格補填10-12月で8,500円発効1/27:それでも高騰価格に
- 国の債務超過655兆円に過去最高1/27:次世代に
- 農林水産省 アニマルウェルフェア全畜種指針作成に1/28:やっと
- 農研機構 冷涼地サツマイモを開発1/28:北海道でもイモ焼酎

東京直近NEWS (1/29 Shi-REPORT)

ホルス

ホルス相場は上げ基調も直近は横ばいからやや弱い。出回り頭数は相変わらず少なく、さらに年始早々の東北以北の大雪影響で年始製造玉の遅延欠品発生し不足感増したが、以降はコロナ感染増加と元々の不需求期から消費の鈍化が加速し2月に突入している。切落し関係とロイン一部の引合はあるが、今後のコロナ影響から消費の停滞は避けられないか。産地も消費地もコロナ感染者増加から工場稼働にも影響が出始めている。

経産牛

経産牛相場はやや下落基調でガリ枝は安値、脂物は横ばい状況。パーツについては、定期アイテムは一定のオーダーを維持も、加工向け冷凍原料等は服感が強く引合弱い。一部で輸入物の代替として、バラ系等の問合せはあるが価格と数量面で完全に輸入物の代替にはなり切れず課題。挽き材の荷動きは相変わらず鈍く価格も下落傾向。量販店の次年度への提案も下げ提示が多いか。

1.畜産技術800号, 2022.1

特集:食肉の『おいしさ』評価に関する最近の新たな展開と将来展望(1-6)

1)特集の企画意図(佐々木啓介、農・食産技総研機構 食肉品質G)

牛肉に限らず食肉の「おいしさ」をブランド開発に活用する事例がみられますがその評価は機器分析と官能特性などの少数因子での説明は困難です。これらと消費者嗜好の相関分析による有意性や相関関係の探索だけでは十分な理解に至らず、食肉の支配的な感覚要素の解明には食肉の本質に迫る評価技術の開発が必要と思われます。

2)食肉加熱時のメイラード反応により生成する香気の保健的機能性(横山壺成・有原圭三、北里大)

食肉の香りは100℃下・上の加熱により異なり、後者はアミノカルボニル化合物の加熱で生じるメイラード反応と呼ばれ、嗜好性向上をもたらす色調や香気を発生します。この香気成分はDMHFと略される化合物で視床下部に作用し自律神経系に働き、脳内遺伝子発現の解析で、食欲調節や血圧降下など保健的機能性が示されています。

3)食肉における「重要な感覚要素」の経時的な解析と「おいしさ」の評価への活用の展望(渡邊源哉、農・食産技総研機構 食肉品質G)

食肉のおいしさの客観的評価はパネラーと呼ばれる人の感覚による記述的分析型官能評価が主体でしたが近年、パネラーの喫食時から最も重要な感覚要素の経時的变化を解析する

TDS法が開発され、しゃぶしゃぶを模して調理した和牛肉の重要感覚要素はかみ切り・変形しやすい、ジューシー、脂肪の口溶け、甘味、うま味の順で、TDS法は食肉の特徴を重要な感覚要素として「おいしさ」を包括的に表現できると考えられました。

*4)-6)は牛肉以外の食肉の「おいしさ」をブランド化に活用する事例でありタイトルのみとします。

4)比内地鶏の「美味しさ」評価と向上に関する最近の展開

5) 栃木県産畜産物のブランド化に向けた官能評価の活用と展望

6)宮崎ブランドポークのおいしさの「見える化」

2.研究レポート: 黒毛和種における飼料利用性の遺伝育種学的研究とこれから(竹田将悠規、家改セ)

牛肉生産では肥育期間が長く飼料コスト削減が課題です。牛の飼料利用性形質としてはムダ食いを的確に示す余剰飼料摂取量(RFI)や維持と消費を除いた真の増体量を示す余剰増体量(RG)から得られる余剰摂取増体重(RIG)が望ましい飼料利用性形質とされ、RIGの遺伝率は0.28-0.34です。家畜の飼料摂取などの表現型データの収集には作物育種とは違った困難さはあるもののIoT技術、ロボット化などで大量のSNP情報を迅速に取得して家畜の表現型データを活用するためには異分野との連携強化が必要です。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2021

基調講演「持続的な畜産物生産を目指して～みどりの食料システム戦略～」 全4回シリーズ③

北海道農政部生産振興局畜産振興課主幹 叶 拓斗氏

特異的な畜産物生産の在り方について②

持続可能な畜産物生産の在り方と地域社会との関わり

目的と意義

畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。アジア・アフリカ・南米の地域社会には生産量不足が生じ、人口増大が起きる中で食料不足が深刻化し、貧困・格差の要因の一つを形成しているが、持続可能な畜産・消費の在り方について学ぶことが重要である。

畜産では、畜養方法や飼料の供給方法によって畜産物の品質や安全性が異なる。畜産物の品質や安全性が向上すれば、畜産物の価格も上がる。畜産物の品質や安全性を向上させるには、畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。

畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。

畜産物の生産・消費の在り方について③

畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。

- 畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。
- 畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。
- 畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。

持続可能な畜産物生産の在り方について④

畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。畜産物の生産・消費は、食と衣の需要に由来する。

- 畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。
- 畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。
- 畜産物の生産・消費の在り方について学ぶことが重要である。

特異的な畜産物生産の在り方について③

畜産物と畜産物の生産の在り方に関する研究の整理

畜産物と畜産物の生産の在り方に関する研究の整理

畜産物と畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (1) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (2) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (3) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (4) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (5) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理	畜産物と畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (1) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (2) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (3) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (4) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 (5) 畜産物の生産の在り方に関する研究の整理 研究内容：畜産物の生産の在り方に関する研究の整理
--	--

持続可能な畜産生産の在り方について④

我が国で畜産・畜産を取り組む意義

- ① 肉・卵の確保面から、畜産資源による肉卵の安定供給と生産拡大による食料増産により、経常経費削減と食料自給率の向上に大きな役割を担っている。
- ② 食料利用で得た収益は畜産の発展と生産者として得た利益である。
- ③ 畜産物は肉類、卵類、畜産加工品等のタンパク源となり食料として並び、食品品と同等利用で肉・卵・畜産加工品等の畜産資源の活用においても食糧源のタンパク源として成立していることから、肉卵が重要な食糧の資源に属している。
- ④ 畜産は、環境負荷削減と食料の確保・増進効果、畜産者による食糧増産の確保と肉卵の安定供給による食料増産、食料自給率の向上、食料の確保と増産の両面にわたって大きな役割を担っており、畜産の発展と生産者の発展・食料の確保の両面にわたって大きな役割を担っており、畜産の発展と生産者の発展・食料の確保の両面にわたって大きな役割を担っている。
- ⑤ 肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。
- ⑥ 肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。
- ⑦ 肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。
- ⑧ 肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。
- ⑨ 肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。
- ⑩ 肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。

これらの中で、肉類、畜産加工品等のタンパク源として、肉卵が重要な食糧の資源に属している。

1 地球温暖化の影響とカーボンニュートラルに向けた国内外の情勢

○ 近年、世界各地で異常気象にともなう被害発生。その主な原因として地球温暖化があげられており、2019年10月国連の報告書にも、国内外で発生している気候変動による被害発生量の増加が著しく、一時的・部分的な回復に留まらず、深刻化する傾向にあると指摘されている。

○ 気候変動は、地球温暖化だけでなく、干ばつ・豪雨・台風・大雪・大規模な森林火災・大規模な水害・大規模な山火など、さまざまな自然災害の発生・増大に大きく関係している。気候変動は、もともと自然災害の発生頻度を高めており、今後も大規模な自然災害の発生が予想される。また、自然災害の発生による経済的被害も、気候変動の影響によってさらに増大する。

○ 気候変動は、地球温暖化だけでなく、干ばつ・豪雨・台風・大雪・大規模な森林火災・大規模な水害・大規模な山火など、さまざまな自然災害の発生・増大に大きく関係している。気候変動は、もともと自然災害の発生頻度を高めており、今後も大規模な自然災害の発生が予想される。また、自然災害の発生による経済的被害も、気候変動の影響によってさらに増大する。

■ 国内外の情勢

国・地域	気候変動に関する政策・取り組み	気候変動に関する被害・影響
日本	2015年、パリ協定に署名。2016年、地球温暖化対策推進法を制定。2017年、地球温暖化対策推進計画を策定。2018年、地球温暖化対策推進法を改正。2019年、地球温暖化対策推進法を改正。2020年、地球温暖化対策推進法を改正。	2019年、台風19号による被害発生。2020年、豪雨による被害発生。2021年、豪雨による被害発生。2022年、豪雨による被害発生。
中国	2015年、パリ協定に署名。2016年、地球温暖化対策推進法を制定。2017年、地球温暖化対策推進計画を策定。2018年、地球温暖化対策推進法を改正。2019年、地球温暖化対策推進法を改正。2020年、地球温暖化対策推進法を改正。	2019年、豪雨による被害発生。2020年、豪雨による被害発生。2021年、豪雨による被害発生。2022年、豪雨による被害発生。
インド	2015年、パリ協定に署名。2016年、地球温暖化対策推進法を制定。2017年、地球温暖化対策推進計画を策定。2018年、地球温暖化対策推進法を改正。2019年、地球温暖化対策推進法を改正。2020年、地球温暖化対策推進法を改正。	2019年、豪雨による被害発生。2020年、豪雨による被害発生。2021年、豪雨による被害発生。2022年、豪雨による被害発生。
米国	2015年、パリ協定に署名。2016年、地球温暖化対策推進法を制定。2017年、地球温暖化対策推進計画を策定。2018年、地球温暖化対策推進法を改正。2019年、地球温暖化対策推進法を改正。2020年、地球温暖化対策推進法を改正。	2019年、豪雨による被害発生。2020年、豪雨による被害発生。2021年、豪雨による被害発生。2022年、豪雨による被害発生。
EU	2015年、パリ協定に署名。2016年、地球温暖化対策推進法を制定。2017年、地球温暖化対策推進計画を策定。2018年、地球温暖化対策推進法を改正。2019年、地球温暖化対策推進法を改正。2020年、地球温暖化対策推進法を改正。	2019年、豪雨による被害発生。2020年、豪雨による被害発生。2021年、豪雨による被害発生。2022年、豪雨による被害発生。

■ 地球温暖化による国内被害と対策（2030年代予測）

区分	収量	品質
水稲	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
小麦	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
大豆	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
粟	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
大麦	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）

※ 収量は、気候変動による被害と対策（2030年代予測）による収量と収量差の差が大きい。品質は、気候変動による被害と対策（2030年代予測）による品質低下と品質低下（アミロpectin、タンパク質）。

■ 2050年の国内の気候変動による被害と対策（0.6℃の増温（0.6℃の平均増温））

区分	収量	品質
水稲	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
小麦	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
大豆	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
粟	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）
大麦	・中収量 ・中収量と収量差の差が大きい	・品質低下 ・品質低下（アミロpectin、タンパク質）

※ 収量は、気候変動による被害と対策（2050年予測）による収量と収量差の差が大きい。品質は、気候変動による被害と対策（2050年予測）による品質低下と品質低下（アミロpectin、タンパク質）。

2

[illegible]

3 日本の温室効果ガス排出・吸収量と農林水産分野の位置づけ

- 2018年度(H30)の日本の温室効果ガス排出量は12億4千万トンで、排出量を調整しても1990年(H2)以降で最も、**森林・農地・水域の吸収量は4億5千万トンで推移**。
- 2018年度(H30)の日本の温室効果ガス排出量は5,800万トンで、そのうち森林が4,700万トン、農地・牧草地が500万トン¹⁾。
- 農地・牧草地の吸収量は、基準年(1990年)と較べ、CO2の吸収量が減少した場合にその差を吸収量と上計算。

■ 日本の温室効果ガス排出動向

1) 2018年度(H30)の日本の温室効果ガス排出量は12億4千万トンで、排出量を調整しても1990年(H2)以降で最も、森林・農地・水域の吸収量は4億5千万トンで推移。

■ 日本の温室効果ガス吸収量(2018年)

2) 2018年度(H30)の日本の温室効果ガス吸収量は4億5千万トンで、そのうち森林が4,700万トン、農地・牧草地が500万トン。

[illegible][illegible]

転載・再利用は固くお断りします